


 図書館
からの大切な
お知らせ

令和3年 7月1日(木)から

開館時間 が変わります！

(沼津市図書館条例施行規則の改正による)

6月30日(水)までの開館時間

 火～金 9:30～18:30
土・日・祝 9:30～17:00

7月1日(木)からの開館時間

 火～金 9:30～19:00
土・日・祝 9:30～17:00

平日の開館時間が30分長くなります。お仕事帰りに、学校帰りに、図書館へもっと立ち寄りやすくなりました。

最新刊

『義元、遼たり』

(静岡新聞社 2019.9) 913.6/ス

せんがくしょうほう

仏の道を捨てた梅岳承芳

(のちの今川義元)は、

師・雪斎との最強タッグで
家督の座を狙う。

武将・今川義元の始まりである

“花蔵の乱”を描いた物語。

武芸も知略も達人級な師匠を慕う義元は、
とても爽やかな青年です。デビュー作からおよそ20年を経て執筆された
名将・義元への思いを込めた作品。

義元読みくらべ!!

『義元謀殺』上・下巻

(角川春樹事務所 2000.3) 913.6/ス

織田の武将を切腹させた旗本が一族郎党
皆殺しにされる事件を契機に、駿河の太守
今川義元の家臣たちは命を狙われる。

その最終的な目的は、太守暗殺？

今川家臣である主人公の凄腕アクションに
ご注目。次から次へと事件が起こり、

ミステリー要素も満載です。

著者はこの作品(改題前『駿府に吹く風』)
で第1回角川春樹小説賞特別賞を受賞！

デビュー作

静岡愛たっぷりの鈴木英治さんが最も思い入れのある武将・今川義元を描いた作品を紹介します！

推してます！！沼津出身の剣豪ミステリー作家 鈴木英治

鈴木英治さんといえば、なんといっても作品数の多さ！ 約20年で執筆した作品は160作以上！

(2021年6月現在) シリーズものも多く、最も巻数の多いのは『口入屋用心棒』で、
現在47巻まで刊行。妻を探すため江戸にやってきた湯瀬直之進が、口入屋に雇われ、
用心棒として活躍するストーリーです。直之進は剣がとても強いのですが、木刀しか

使わないのは何やら理由がありそうですね。謎めいた主人公、素敵です。まだまだシリーズ続きます！

ちなみに直之進は駿州沼里の出身という設定があるのですが、もしかして沼津のこと……？ さすがの静岡愛です！

そして、知っていただきたいのがアクションシーンのカッコよさ！ ギリギリで敵の攻撃をかわす迫力あるシーンが見どころです。凄腕の剣士が大勢登場するので、ハイレベルなアクションシーンが拝めます。

また、歴史小説界に風穴をあけようというコンセプトで歴史小説イノベーション「操觚(そうこ)の会」
を2016年に立ち上げました。革命を起こそう、みたいな気合いの入りがすごいですね。

そして、会長を務めている鈴木英治さんはまさにその先陣を切っているといえます。

ちなみに、妻・秋山香乃さんも歴史小説家で、同じく操觚の会に所属して活動しています。

ご夫婦で活動されている地元の作家、レアですよ。今後の作品も楽しみにしています。

鈴木英治さん、
応援して
います！

地名の由来（その20）—旧浮島村地区—

浮島は愛鷹山南麓の浮島沼に接した地区です。1 万年以上前の海岸線は愛鷹山山麓でした。やがて砂礫の流入・堆積により砂洲ができ、その内陸は湖、沼へと変わりました。一説には、豪雨で一部の水田が浮き上がり流される現象が見られたため、浮島と称されたといわれています。浮島ヶ原は浮島沼を含む湿原です。この辺りは富士山を眺望できる場所として知られ、江戸時代に歌川広重の浮世絵などで広く知られるようになりました。明治22年（1889）町村制施行の際、根古屋・井出・石川・船津・平沼・西船津・境の7カ村が浮島村となりました。村の名は浮島沼に接した村々からなることに由来します。昭和30年（1955）根古屋・井出・平沼・石川地区が原町と合併、船津、西船津、境地区は富士市と合併しました。昭和43年（1968）原町と沼津市の合併により、根古屋・井出・平沼・石川の各大字は沼津市の大字となり現在に至ります。



歌川広重『東海道五十三次』原 朝の富士

興国寺城跡（こうこくじじょうあと）

興国寺城は伊豆を平定し、後北条氏の祖となる伊勢新九郎盛時（のちの北条早雲）旗揚げの城として知られている。戦国時代の興国寺城は、尾根を活かした「土造り」の城だった。残されている城の姿は戦国時代の姿を引き継ぎながら、戦国時代末から江戸時代初頭にかけて整えられたと考えられている。北曲輪・本丸・二の丸・三の丸・土塁・石垣・大空堀などの跡が確認できる。平成7年（1995）に国の史跡に指定され、平成29年（2017）、続日本百名城に選定される。

浮島ヶ原

浮島沼は富士沼（不二沼）ともいわれる。愛鷹山と浮島沼を背景とした富士の眺めは旅人の疲れを癒し、歌に詠まれてきた。浮島ヶ原は浮島沼を含めた湿原をいい、浮世絵に残されている。



井出丸山古墳（いでまるやまこふん）

横穴式石室を有する円墳。6世紀後半に造られたと推定されている。



AOI（あおい）パーク

平成29年（2017）西野に開設された静岡県のアグリ・オープン・イノベーション・プロジェクトの拠点。



研究機関や企業が農業の生産性革新に取り組んでいる。



浮島沼の自然

絶滅危惧種のサウトラノオ、ヒキノカサ、準絶滅危惧種ノウルシなどが見られる。水生生物、野鳥など多様な生物の観察ができ、夏にはツバメのねぐら入りが見られる。

ノウルシ：トウダイグサ科
黄色く花びらのように見える部分はつぼみを包んでいた葉で苞葉（ほうよう）という。花は中心の小さい部分。県内ではアクアブラザ遊水地や浮島ヶ原（富士市）あたりでしか見られない。



大泉寺 伝阿野全成、時元の墓

阿野全成（あのぜんじょう）は幼名を今若丸といい、源頼朝の異母弟にあたる。頼朝の平家打倒の挙兵に協力した功で駿河国阿野庄を与えられ、井出に居を構えて、阿野氏を名乗った。大泉寺は全成の館跡といわれている。全成とその子時元（ときもと）のものと伝わる墓が、大泉寺にある。

浮島ひまわりランド

休耕田を埋め立て、整備された。地域の家庭で育てられた苗を6月初旬に植栽している。7月中下旬に開花。開花後は種を採取して、秋にはひまわり油を精製する。冬から春にかけては菜の花が栽培されている。



根古屋（ねごや）：戦国時代に山城の城下の村を根古屋といい、興国寺城に由来する。井出（いで）：イデは湧水を意味し、水の湧く場所であることからつけられたといわれる。平沼（ひらぬま）：平らな沼地で、浮島沼に由来すると考えられる。石川（いしかわ）：村を流れる大沢川が石の多いことから地名になったといわれる。西野（にし）：明治35年（1902）に浮島村が払下げを受けた官有地で、野は傾斜地を意味し、愛鷹山丘陵地の西側であることからつけられた。

🦀 たのしい夏のイベント 🦀

夏の企画展

ここにひびく絵本との出会い ～贈るしあわせ、めぐる四季～

申込不要

人生の節目に、贈られて嬉しい本、贈ってあげたい本。めぐる四季の豊かな自然と出会う絵本の魅力をお伝えします。

日時 7月8日(木)～8月4日(水)

共催 ぬまづ子どもの本を学ぶ会

子どもの本を知る講座

紙芝居を楽しむ

～扉のむこうで待っている世界～

さまざまなジャンルの紙芝居の紹介や、楽しみ方、演じ方についてお話しします。

日時 7月18日(日) 13時30分～15時

講師 鈴木 真理さん（静岡県子ども読書アドバイザー）

要申込！

夏休み図書館子ども探検隊

要申込！

カウンターで本の貸出し・返却処理や読み聞かせ、本にバーコードを貼る、ブックポストの本を整理するなど図書館の仕事を体験できます。ふだん触れることのない図書館の“裏側”を探検してみよう！

日時 7月27日(火)、28日(水)、29日(木)、30日(金)
8月3日(火)、4日(水)、5日(木)、10日(火)
午前9時～12時30分

対象 市内の4年生以上の小学生

8月5日・10日はプレミアム探検隊！

探検隊に参加したことのある方のみ、本の選び方や返却された本を棚に戻す作業など、図書館の仕事をより深く体験できます！

★詳細は、広報ぬまづ、チラシ、図書館ホームページ等をご覧ください